

公益社団法人日本臨床細胞学会
平成 28 年度第 3 回理事会 議事録

日時：平成 28 年（2016 年）11 月 18 日（土） 7 時 00 分～9 時 30 分

場所：ビーコンプラザ第 4 会場 中会議室 1 階（別府）

役員総数： 39 名（理事 39 名，監事 3 名）

出席総数：理事 37 名，監事 3 名

（理事長）青木 大輔（副理事長）紀川 純三，越川 卓，植田 政嗣，佐藤 之俊

（理事）池田 徳彦，石井 保吉，伊藤 潔，伊藤 仁，稲山 嘉明，井上 健，
榎本 隆之，岡本 愛光，小田 瑞恵，加来 恒壽，加藤 久盛，川本 雅司，小西 登，
小松 京子，齋藤 豪，白石 泰三，竹島 信宏，寺本 勝寛，内藤 善哉，長尾 俊孝，
中村 直哉，羽場 礼次，平井 康夫，広岡 保明，藤井 多久磨，前田 一郎，
森井 英一，森谷 卓也，八重樫 伸生，山城 勝重，横山 繁生，横山 正俊

（監事）

長村 義之，佐々木 寛，長谷川 壽彦

（幹事）

柿沼 廣邦，垣花 昌俊，所 嘉朗，富永 英一郎，町田 知久，山下 博

（専門医会会長）

土屋 眞一

（制度審議委員会委員（陪席））

平田 哲士

（教育研修に関わるガイドライン検討ワーキンググループ委員長）杉山 裕子

欠席者

（理事）落合 和彦，生水 真紀夫

（肺がん学会とのワーキンググループ委員長）渋谷 潔

（総務委員会幹事）星 利良，丸田 淳子

（制度審議委員会委員（陪席））北村 隆司

（会計士）中田 ちず子

議長選出の議：本学会定款第 33 条に則り，池田徳彦総務委員長が議長となった。

議長は定款第 34 条に則って，理事総数の過半数（37 名）の出席により定足数
を満たしたので本法人の理事会が成立した旨を述べた。

議事録署名人選出：定款 35 条に則り，議事録署名人は理事長並びに監事 3 名とすることが
確認された。

1. 理事長報告：青木大輔

第 57 回春期大会・総会および第 19 回 ICC が無事終了したことについて関係各位に謝辞が述べられた。また，専門医制度について日本専門医機構の指針に沿った教育研修制度の改革が進められていることが説明された。

2. 副理事長報告

紀川純三副理事長：学術，編集，国際交流，IAC を所管している。各事業は滞りなく進行しており，詳細については各委員会委員長を確認していただきたい。

越川 卓副理事長：認定試験，検査士，教育を所管している。各事業は滞りなく進行しており，詳細については各委員会委員長を確認していただきたい。

植田政嗣副理事長：細胞診専門医制度改革を進めており，専門医制度整備指針に則り変更を行った。専門医機構のヒアリングが行われ，サブスペシャリティ学会として概ね認められると理解している。今学術集会の専門医セミナーで変更内容について講演する予定であることが述べられた。

佐藤之俊副理事長：総括，財務，財務を所管している。各事業は滞りなく進行しており，詳細については各委員会委員長を確認していただきたい。また，理事候補選出委員会委員長として全国理事候補選挙を実施した，今後地方選出理事候補選挙を引き続き行う予定であることが述べられた。

3. 庶務報告（池田徳彦総務委員会委員長）

平成 28 年度総務庶務報告（2016 年 11 月 7 日現在）

全会員数：12,205 名

（正会員 5,556 名，準会員 6,428 名，名誉会員 39 名，功労会員 157 名，図書会員 25 件）

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：2816 名（実数）

（認定：細胞診専門医 3,325 名，細胞診専門歯科医 45 名）

FIAC：110 名 MIAC：33 名

細胞検査士数：7,378 名（実数）（認定 9,364 名）

CT(IAC)：4,853 名

物故会員（2016 年 11 月 7 日現在）

（正会員）

名 誉 会 員 杉森 甫 先生（国際医療福祉大学）

功 労 会 員 武田 敏夫 先生（千葉大学医学部附属病院病理部）

松岡 規男 先生（（医）松山会老健施設「ライフモア保土ヶ谷」）

守谷 修而 先生（（財）結核予防会北海道支部札幌複十字総合健診センター
産婦人科）

細胞診専門医 佐藤 悠二 先生（一般社団法人江戸川区医師会医療検査センター）

森田 恒之 先生（森田泌尿器科産婦人科医院）

医 師 窪田 彬 先生（神戸百年記念病院）

（準会員）

細胞検査士 安藤 千恵子 殿（共立蒲原総合病院検査課）

平澤 太郎 殿

黙 禱

4. 第 19 回国際細胞学会議(ICC2016)・第 57 回(2016 年)春期大会報告(青木大輔理事長)
滞りなく終了したことの報告がなされ、協力していただいた関係各位に謝辞が述べられた。
5. 第 55 回(2016 年)秋期大会準備状況(横山繁生理事)
本日よりの学術集会が滞りなく開催されるように準備がされたことが説明された。
6. 第 58 回(2017 年)春期大会準備状況(植田政嗣理事)
会期：2017 年 5 月 26 日～28 日 会場：大阪国際会議場
学術集会プログラム内容について詳細な説明がなされた。
7. 第 56 回(2017 年)秋期大会準備状況(加来恒壽理事)
会期：2017 年 11 月 18 日・19 日 会場：福岡国際会議場
8. 第 59 回(2018 年)春期大会準備状況(斎藤 豪理事)
会期：2018 年 6 月 1 日～3 日 会場：ニトリホール・ロイトン札幌

9. 報告事項

総務委員会(委員長 池田 徳彦)

[報告事項]

1. マイナンバー外部委託会社は本澤式貸金研究所(社会労務士事務所)に決定し、実施に向けてのスケジュール作成中。(平成 28 年度第 3 回理事会終了後収集開始予定)
特定個人情報取扱要綱およびホームページに掲載される個人情報取り扱いに関する周知文が提示された。
マイナンバーについては、他に情報漏えいなどが起こらないようにきちんと一元管理を行いたいため、このような体制を取ることにした旨理事長より追加発言があった。
2. 河原栄理事の辞任に伴い、7 月初頭に内閣府へ役員変更届を提出した。
3. 熊本地震義援金を募ったところ各地域連携組織から総額 129 万円が集まった。理事会決定による学会からの義援金 50 万円と合わせた 179 万円を 8 月 1 日に熊本県臨床細胞学会指定口座へ送金した。後日、熊本県臨床細胞学会会長より礼状をいただいた。
4. 下記の講習会等に日本臨床細胞学会として後援を承認した。(金銭的な支援では無く、名称使用のみ承認)
 - 1) 「平成 28 年度 中皮腫の診断精度向上のための講習会」(2016 年 8 月 7 日開催)
(主催：環境省)
 - 2) 「第 2 回・第 3 回 泌尿器細胞診報告様式 2015 に沿ったワークショップ」
(主催：泌尿器細胞診(別府)カンファレンス)
 - 3) 「第 4 回 泌尿器細胞診報告様式 2015 に沿ったワークショップ」
(主催：泌尿器細胞診(別府)カンファレンス)
 - 4) 「第 5 回 泌尿器細胞診報告様式 2015 に沿ったワークショップ」
(主催：泌尿器細胞診(別府)カンファレンス)
 - 5) 「平成 28 年度 中皮腫の診断精度向上のための講習会」(2017 年 1 月 15 日開催)
(主催：環境省)
5. 内閣府立ち入り調査は 2017 年 2 月 22 日に決定。
6. 今後の会議予定が確認された。

〔審議事項〕

1. マイページのログイン率を高める方策の検討
2. 「サクラ病理技術賞」の推薦者について：応募者には推薦者が必要であり、推薦者の資格として本学会の理事・評議員等が含まれており、推薦の依頼があった場合には協力するよう要請がなされた。
3. 会員資格喪失者の会員資格復帰について：会員資格復帰希望者が13名あり、復帰が承認された。
4. 会員カードを用いた参加情報の電子化について：現状の説明がなされ、情報管理の責任体制として、情報処理委員会、細胞診専門医委員会、細胞検査士委員会、および総務委員会で情報の管理を行うことが提案され承認された。青木理事長より今後、他学会の専門医更新のための単位として他学会へ参加情報を提供する必要が生じるため、会員全員に本学会としてカードを配布することも検討したいとの発言があった。

情報処理委員会（委員長 伊藤 仁）

〔報告事項〕

1. マイページについて
2016年9月1日より改修中であった項目が閲覧可能となった。
その他、細かい修正等は引き続き改修を進めている。
・2016年11月02日現在のマイページログイン率
医師:55.35% 技師(正会員):73.42% 技師(準会員):64.36%
名誉会員:35.90% 功労会員:45.22% 合計:61.44%
ログイン率の向上のために、本学会の学術集会や地域連携組織の学術集会で周知することを検討している。
2. 細胞検査士のセミナー・ワークショップ参加受付の電子化
第71回細胞検査士教育セミナーでのカード読取テストを行い、参加900名のうち893名が持参しており、持参率は99%でした。第72回細胞検査士教育セミナーでも実施しました。

〔審議事項〕

特になし

学術委員会（委員長 内藤 善哉）

〔報告事項〕

1. 学会賞・技師賞・班研究課題の選考委員会を2016年9月30日（金）に日本臨床細胞学会会議室において開催した。選考結果は以下の通りである。
応募数は、学会賞1名、技師賞（学術部門）2名、（功労部門）3名、班研究課題3件であった。

選考結果報告；

- 1) 学会賞：松江市立病院病院長，紀川純三氏 が選考された。
選考理由：副理事長，学術委員長や春の学術集会大会長として日本臨床細胞学会並びに細胞学の進歩に多大な貢献をされた。
- 2) 技師賞（学術部門）：東海大学医学部付属病院病理検査技術科，加戸申明氏 が選考された。
選考理由：多くの優れた細胞診に関する論文や発表を行うなど学術的に優れた業績を有する。
- 3) 技師賞（功労部門）：上尾中央総合病院検査技術科 病理，大野喜作氏 が選考された。
選考理由：永年，細胞診に関する論文や発表を行い，また，多くの講習会の講師などを務め日本臨床細胞学会の発展や後進の育成に貢献している。
- 4) 班研究課題：博愛会相良病院病理診断科部長，大井恭代氏 が選考された。
選考理由：乳腺疾患の細胞診における液状化細胞診の有用性について，新たな観点からのエビデンスが期待される。

2. 最優秀論文賞の応募について 11 月頃よりイエローページおよびホームページにて応募要項を掲載予定。応募期間は平成 28 年 1 月中旬から 2 月中旬を予定している。
3. 各種選考に際し，規定以外に選考方法に関する具体的な内規を作成した。内規は今年度より用いることとし，制度審議委員会川本委員長に内容確認を依頼した。
4. 国際病理アカデミーから学術委員の推薦依頼があり，本学会からは中村直哉理事を推薦した。
5. 日本医学会より「第 30 回日本医学会総会 2019 中部」の学術プログラム構成に関するアンケートの依頼があり，委員の意見を取りまとめ回答した。
6. 学術集会あり方検討ワーキンググループを学術委員会内に設置した。
ワーキンググループメンバー：
横山 繁生，加来 恒壽，都築 豊徳，小松 京子，白石 泰三，久山 佳代，
中村 直哉，内藤 善哉
メンバーは協議内容に伴い，適宜追加できることとする。
学術集会のあり方について議論のための提案書を作成，委員の意見を募り，学術委員会選考委員会後に話し合いの場を持った。

〔審議事項〕

特になし

計理委員会（委員長 岡本 愛光）

〔報告事項〕

1. 計理基準の作成について
計理基準の作成について，現在「退職金規定案」を事務局内で作成中である。出来上がり次第，中田会計事務所に確認を行う予定である。
2. 秋の監査会を 11 月 8 日に行われた。概ね問題なく細かな修正を行って最終的な書類作

成中である。長谷川寿彦監事より、監査についてのルール作りを明文化する必要があるとの発言があった。川本理事より報酬等の支出基準についての案が以前提出されている。細かい文言の関係でまだ承認には至っていない。これらを周知して確認する必要があるのではないかと発言があった。内藤理事より、学術集会の在り方WGでも計理の件も含めてスケジュールのルールを示す方向で検討しているとの発言があった。

3. 平成 29 年度の予算案について委員会委員長宛に書類を発送した。

(提出締切：11 月 30 日)

〔審議事項〕

特になし

編集委員会 (委員長 竹島 信宏) 【資料 38P-42P】

〔報告事項〕

1. 投稿論文 (9 月 21 日時点) (資料 1.2)

調査対象期間

2014 年投稿論文：113

2015 年投稿論文：75

2016 年投稿論文：57

採用率

2014 年投稿論文：73.5%

2015 年投稿論文：68.0%

2016 年投稿論文：45.6%

2. 2016 年日本臨床細胞学会雑誌 55 巻 3 号・4 号の発刊

〔審議事項〕

1. 株式会社メテオメディカルオンライン学会誌配信契約について

メディカルオンラインは、発行された雑誌を公開するという事業であり、現在の J-STAGE に加えてメディカルオンラインにも本学会の雑誌を公開することになることが説明された。メディカルオンラインへの掲載料は発生せず、むしろ論文閲覧者に課金され、その一部が学会収入となること、さらに過去 10 年分のバックナンバーも無料で掲載可能であることが説明され、メディカルオンラインとの契約締結が提案された。

審議の結果特に反対意見なく、契約について了承された。

2. Acta Cytologica のオンライン購読について

学会全体として Acta Cytologica を年間オンライン購読料 23,000SF (約 250 万円) での購読契約を結ぶことが提案された。

佐藤副理事長より本学会のオフィシャル雑誌であるにも関わらずこの金額が発生する妥当性に対して疑問が呈された。長村監事より閲覧していただくことには IAC としてメリットはあるが値段が高いという印象がある。学会として許容可能な値段まで価格交渉で下げられるかどうかの問題であるという意見が述べられた。山城理事より本学会事務局の事務作業が増える懸念があるという発言があった。また、佐々木監事より、

IAC メンバーはすでに会費を払っており費用の二重払いの問題があるため、精査する必要があるとの発言があった。また、小松理事より IAC メンバーのメリットが少なくなるという懸念もあるという発言があった。以上の問題点を考慮し、本件は継続審議となった。

細胞診専門医委員会（委員長 齋藤 豪）

[報告事項]

1. 第2回細胞診専門医委員会が開催され以下の点が話し合われた。
2016年9月11日（日）10:00～15:00
日本臨床細胞学会事務局 地下2階
 - 1) 細胞診専門医試験に関して
 - 2) チェックリストの変更
 - 3) 受験生 129人
 - 4) 試験会場について：AP浜松町を予定しているが今後もっと安い会場を探す努力をすることとなった。
2. 2016年細胞診専門医資格更新対象者
0774-0899, 1171-1241, 1447-1509, 1711-1797, 2160-2274, 2578-2672, 2962-3051, 8001-8017
3. E-learning について
これまで行われた教育講演について7題をピックアップしDVDを作成した。それぞれの講演（DVD）について設問5問を作成した。次回のイエローページにて会員に周知し開始する予定。

[審議事項]

1. 会員カード紛失について、800円の実費で再発行を行うことが承認された
2. 細胞診専門医資格審査用願書変更に関して：現状に即した形への変更案が提示され、審議の結果承認された。

施設認定制度委員会（委員長 長尾 俊孝）

[報告事項]

1. 平成27年度認定施設新規申請について
2016年3月31日（木）締め切りとし、申請施設は8施設あった。
2016年6月14日（火）に審査会を行い、審査の結果、認定条件を満たしていない1施設を認定不可とし、他7施設を認定し、認定証を発送した。
2. 平成28年度教育研修施設新規申請について
2016年6月30日（木）締め切りとし、申請施設は11施設あった。
2016年7月30日（土）に審査会を行い、審査の結果全11施設を認定し、認定証を発送した。
3. 平成27年度年認定施設年報提出状況（提出締切 2016年3月31日）
全853認定施設中 提出済788施設（92.4%） 未提出59施設（6.9%） 廃止6施設

(0.7%)

4. 平成 28 年度教育研修施設年報提出状況（提出締切 2016 年 6 月 30 日）
全 314 教育研修施設中 提出済 243 施設（77.4%） 未提出 71 施設（22.6%）
事務局より未提出施設について督促を行っている。
5. 内部精度管理（実地調査）について
平成 28 年度実施調査は、内部精度管理ワーキンググループ（山城勝重 WG 長）のもと
で 4 施設（年報未提出施設 3、新規認定施設 1）を対象として実施（平成 28 年 8 月中）
対象施設： 国立病院機構仙台医療センター，和歌山県立医科大学附属病院，明石市立
市民病院，一般財団法人永頼会松山市民病院
結果は、全施設とも「良」であった。年報未提出等の原因は、東日本大震災・専門医
の病気療養・組織変更等によるもので、今後は改善出来ると判断した。
6. 平成 27 年度認定施設更新業務
対象施設 59 施設
更新可 48 施設（81.4%） 更新可として新認定証を送付済。
未完了 10 施設（16.9%） 未完了理由：年報未提出，更新料未納
未申請 1 施設（1.7%）
7. 平成 28 年度教育研修施設更新業務
対象施設 6 施設
更新可 5 施設 更新可として新認定証を送付済。
未申請 1 施設
8. 外部精度管理（コントロールサーベイ）について
本年 6 度目となるコントロールサーベイは、外部精度管理ワーキンググループ（小島
勝 WG 長）のもとで既に問題作成が終了し、配布 DVD が完成した。9 月末に全認定施設
へ配布済。
解答は 2016 年 10 月 31 日（月）締め切りとして回収する。
解答は集計し、集計結果と症例の解説は 2017 年 3 月には学会ホームページにて閲覧可
能とする予定。参加施設にはその際、参加証明書を送付予定。

〔審議事項〕

特になし

細胞検査士委員会（委員長 加藤 久盛）

〔報告事項〕

1. 平成 28 年度（第 49 回）細胞検査士資格認定試験
志願者総数は 760 名で、このうち 88 名が 1 次試験免除のため 1 次試験の志願者数は 672
名となった。1 次試験は 2016 年 10 月 29 日（土）に CIVI 研修センター新大阪東（関西）
で実施した。
2 次試験は 2016 年 12 月 10・11 日（土・日）に東京富士大学において実施する予定。
2. 平成 28 年度細胞検査士試験問題作成委員会
2016 年 7 月 18 日（月・祝），2016 年 8 月 21 日（日），2016 年 9 月 11 日（日）の 3

回にわたり、委員会を開催して筆記試験および細胞像試験の問題を作成した。

3. 2016年CT(IAC)資格認定試験

2016年5月28日(日)、パシフィコ横浜において実施した。101名が受験し、101名全員が合格した。

[審議事項]

1. 細胞検査士養成課程、養成所の申請に必要な資料についての変更案が提示され、承認された。また、5年ごとに報告書の提出を義務付ける点についても承認された。

細胞検査士資格更新審査委員会（委員長 羽場 礼次）

[報告事項]

1. 平成27年度 細胞検査士資格更新者(ピンクカード) (2016年11月2日現在)
全更新対象者数：1507人
更新完了者：1433人(95.1%) 条件付き更新完了者：23人 保留更新者：3名
未申請：10人 更新辞退・退会者：31人 資格失効：1人
更新未完了者：4人(再提出・未入金等) 宛名不明：2人
2. 平成28年度 細胞検査士資格更新対象者メンバー (グリーンカード)
0138～0194, 0364～0439, 0760～0912, 1147～1353, 2068～2258, 2913～3119,
3932～4209, 4942～5134, 5813～6050, 6574～6748, 7450～7685, 8318～8612
更新予定者：1819人
※ 2017年2～3月に更新審査予定

[審議事項]

特になし

教育委員会（委員長 八重樫 伸生）

[報告事項]

1. 平成28年度の予定は順調に行われていることが報告された。

講習会	開催日	開催地・実施委員長
第125回細胞検査士養成講習会	2016年7月4-16日	東京医学技術専門学校：東海大学医学部・伊藤 仁
第41回細胞診断学セミナー	2016年8月4-7日	東京医学技術専門学校：教育委員長
第71回細胞検査士教育セミナー	2016年8月27-28日	日本教育会館：片山 博徳
第72回細胞検査士教育セミナー	2016年9月10-11日	松下IMPホール：矢羽田 一信
第72回細胞検査士ワークショップ	2016年7月23-24日	札幌医科大学：田上 稔
第73回細胞検査士ワークショップ	2017年3月11-12日	国際医療福祉大学成田保健医療学部：平田 哲士

2. 平成 29 年度決定済みの予定

講習会	開催日	開催地・実施委員長
第 126 回細胞検査士養成講習会	2017 年 7 月 3-15 日	東京医学技術専門学校：東海大学医学部・伊藤 仁
第 42 回細胞診断学セミナー	2017 年 8 月 3-6 日	東京医学技術専門学校：教育委員長
第 73 回細胞検査士教育セミナー	2017 年 8 月 19-20 日	パシフィコ横浜メインホール
第 74 回細胞検査士教育セミナー	2017 年 9 月 9-10 日	学校法人加計学園倉敷芸術科学大学

3. 平成 28 年度 研修会・セミナー参加人数

講習会	参加人数※ () 内は前回の人数
第 125 回細胞検査士養成講習会	40 名 (39)
第 41 回細胞診断学セミナー	33 名 (24)
第 71 回細胞検査士教育セミナー	889 名 (993)
第 72 回細胞検査士教育セミナー	758 名 (651)
第 72 回細胞検査士ワークショップ	講義のみ：55 名 (110) 講義と実習：106 名 (80)

4. 細胞診断学セミナーの参加者を増やすために下記の方策をとることが説明された

- 1) 今後は募集開始日を例年より 2 か月程早める。
- 2) 一斉メールを利用し広報していく。

〔審議事項〕

1. ガイドラインを取り入れた講義内容について
教育委員会主催のセミナー・ワークショップ等の講義内容にガイドラインを取り入れることが提案され承認された。
2. 喀痰細胞診の判定区分別標準的細胞を取り入れた講義内容について
教育委員会主催のセミナー・ワークショップ等での呼吸器の講義内容に喀痰細胞診の判定区分別標準的細胞を取り入れることが提案され、承認された。
3. 青木理事長より教育委員会主催の上記講習会等において参加情報を会員カードを用いて電子的に管理を開始してほしいとの要望があり、全員異議なく可及的速やかに開始する方向となった。

渉外・広報委員会 (委員長 加来 恒壽)

〔報告事項〕

1. 他団体のセミナー・委員会等に出席し、学会として求められた対応を行うと共に、情報の収集・共有に努めた。
2. 一斉メール送信依頼文を検討し、承認、送信指示をした。

[審議事項]

特になし

社会保険委員会（委員長 稲山 嘉明）

[報告事項]

1. 平成 28 年度診療報酬改正の総括
*セルブロック法が N004 細胞診の項目に掲載された(860 点)。ただし、悪性中皮腫を疑う場合に限定されている。
*細胞診として扱われているので、現状ではこれを用いた免疫染色は不可と思われる。
2. 平成 30 年度改正にむけた要望の検討に入る。具体的には、委員会開催、メール審議、必要に応じてアンケート調査、関連学会等との話し合い、内保連出席など。

[審議事項]

1. 平成 30 年度診療報酬改正にむけて、社保委員会として以下のたたき台を考えている旨が説明され、了承された
 - 1)既記載技術
 - ①セルブロック法 (N000, 病理組織標本作製として 860 点)
細胞診の項目から組織診への項目への変更, 適応拡大などをめざす
 - ②免疫染色 (N002, 細胞診について 400 点)
 - ③LBC (N004 注 1, 婦人科細胞診について 85 点への増点)
 - ④細胞診断料 (N006-2, 婦人科材料について 200 点)
 - 2)未記載技術
 - ① 婦人科細胞診スクリーニング陰性標本に対する自動判定支援加算
2. 呼吸器内視鏡学会から、EBUS-TBNA に関連して「迅速細胞診 rapid on-site evaluation (ROSE)」の共同提案依頼があった。当委員会でメール審議の結果、応諾したいと考えている。ただし、本学会の理念に抵触する部分がある可能性も懸念されるため、慎重に検討するとのことであった。前田理事より細胞診を用いた遺伝子検査について本学会の姿勢を示す必要があるのではないかという提案があった。稲山理事から、以前厚労省に提案した経緯もあったが承認されなかったとの説明があった。
川本理事より他の領域の迅速細胞診についても考える必要があるとの発言があった。

地域連絡委員会（委員長 広岡 保明）

[報告事項]

1. 平成 27 年度地域学会・連合会活動報告について、報告書提出の案内を 2017 年 1 月より開始予定である。
2. 子宮頸がん検診推進活動支援について
 - 1) 平成 27 年度の活動支援について
申請件数 42 件。実施内容を提出した地域学会へ支援を行う。
支援費用については、5 万円を上限とした。
実施内容提出および支援件数 41 件（2016 年 9 月 8 日現在）

- 1 件は実施内容書類の提出待ちである。
- 2) 平成 28 年度の活動支援について
希望地域は 3 月末日までに企画書を提出するよう依頼した。

〔審議事項〕

特になし

国際交流委員会（委員長 森谷 卓也）

〔報告事項〕

1. 2 国間交流

- 1) 第 6 回日中細胞診合同会議は開催に向けて日程等調整中。
- 2) 第 15 回日韓細胞診合同会議
開催日：2016 年 10 月 29 日(土)
開催地：韓国・済州島(Jeju Hyatt Hotel)
(本年は韓国細胞診の 30 周年にあたり、行事が催される予定)
(2017 年以降は毎年 9 月第 1 週金曜日・土曜日に開催の予定)

2. 国際・アジアフォーラム

- 1) 第 55 回日本臨床細胞学会秋期大会(会長 横山繁生)
開催日：2016 年 11 月 18 日(金)-19 日(土)
開催地：別府
国際・アジアフォーラム(Global Asia Forum)
担当：南部委員，小林先生
- 2) 第 58 回日本臨床細胞学会総会（春期大会）(会長 植田政嗣)
開催日：2017 年 5 月 26 日(金)-28 日(日)
開催地：大阪
国際・アジアフォーラム(Global Asia Forum)
担当：中尾委員，小松委員，小林先生

3. その他

- 1) 豪州との交流事業について：人事交流を継続する方針であることが説明され、今後の大会長にも協力が要請された。
- 2) 2018 年の欧州細胞学会議における Companion Meeting への招請があり、今後検討することが説明された。

〔審議事項〕

1. カンボジアの医師招請について：カンボジアとの交流について：学術集会に定期的に医師を招請することを検討いただきたいとの提案があり、審議の結果 5 年をめどに行うことが承認された。

制度審議委員会（委員長 川本 雅司）

〔報告事項〕

1. 理事会，総会承認に基づく定款，細則改定の実施を行っている。
2. 各委員会内規の把握と取りまとめの実施を徹底したい。

〔審議事項〕

1. 文書管理規定の改定（文書の電子媒体による管理）について審議され，承認された。

医療安全委員会（委員長 森井 英一）

〔報告事項〕

1. 医療安全セミナーの開催
第55回(2016年)秋期大会において医療安全セミナーを開催する。第57回総会では「臨床細胞検査等における医療安全について」を行った。
2. 第55回秋期大会では，医療安全セミナー「医療事故の対処手法に関する一考察」とともに，医療安全の観点から特に重要な感染対策についてのセミナーも開催する。
3. MSC ホットラインを継続する。利用実績が乏しいので周知を図るよう努力する。

〔審議事項〕

特になし

倫理委員会（委員長 伊藤 潔）

〔報告事項〕

1. 第55回(2016年)秋期大会では，倫理委員会指定セミナーとして，大分大学倫理学講座の今井浩光教授による講演を予定。

〔審議事項〕

特になし

利益相反委員会（委員長 藤井 多久磨）

〔報告事項〕

1. COI に対する Q&A を「細胞診断学に関する医学研究の利益相反指針・細則に関する Q&A」として，HP とイエローページに掲載した。
2. 利益相反委員会の内規を作成し，制度審議委員会に提出をした。
3. 就任中の役員・委員長・倫理委員・利益相反委員に，2016年分の利益相反自己申告書の提出を依頼する。（2017年3月1日発送，提出期限2週間後）

〔審議事項〕

特になし

臨床試験審査委員会（委員長 中村 直哉）

〔報告事項〕

1. 臨床試験審査を随時行っていく。
2. 倫理委員会および臨床試験審査委員会の外部委員に明治大学法学部 小西知世准教授

を決定.

〔審議事項〕

特になし

IAC 連絡委員会 (委員長 長村 義之)

〔報告事項〕

1. Executive Council 2016-2019がICC Yokohamaの終了とともに職務を開始されたことが報告された.

Acta Cytologica の投稿数増加・2017 の IF 奪還, IAC 試験の実施, Tutorial の推進, Education material の充実など課題が多数. JSCC の会員の方々のご支援をお願いしたいとの要請があった. また, Acta Cytologica の件については本部に確認することが述べられた.

〔審議事項〕

特になし

泌尿器細胞診新報告様式解説書刊行ワーキンググループ (委員長 白石 泰三)

〔報告事項〕

1. 泌尿器細胞診新報告様式解説書の PDF をホームページに掲載した. 会員は自由にダウンロード出来る. Paris system との関係性について問い合わせがあったので, それを示すための改訂作業を行っている.
2. 本 WG としては冊子体での解説書の発刊は行わない. 発刊については診断カテゴリー毎の尿路上皮癌のリスクが数値化された時点で提案を行う.
3. 本 WG は年度内で終了する.

〔審議事項〕

特になし

臨床試験ワーキンググループ (委員長 寺本 勝寛)

〔報告事項〕

1. 「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究(CITRUS study)」
(山梨県, 千葉県柏市)

〔進捗状況〕

・最終登録数は18,471例(山梨県12,192例, 柏市6,279例)であった. 今後, 追跡調査を継続する.

・山梨県における研究協力医療施設や自治体担当者を対象とした「中間報告会」を, コラニー文化ホール(甲府市)において2016年9月26日に開催した. 参加者は医療施設21名, 自治体担当者 6名を含めた全36名であった.

2. 「子宮頸癌疑い患者及び検診受診者を対象とした LC-1000 の有用性に関する臨床試験」
目的: 要精密検査目的で来院した子宮頸癌疑い患者, 及び検診受診者を対象とし,

LC-1000(剥離細胞分析装置：一般医療機器 シスメックス社製)により算出されたCPIx(Cell Proliferation Index)に基づく定性判定の有用性を、HPV検査と比較することにより検証する。中間報告会を2016年2月20日に行った。

〔試験予定期間及び目標症例数〕

- ・試験予定期間：2015年6月～2017年3月(終了予定)
- ・目標予定症例数：要精密検査対象者：約400例，検診受診者：約480例

〔進捗状況〕

- ・現在の進捗：要精密検査対象者：合計488(2016.9.30時点)

Disease例蓄積のため、現在も症例集積中である。

〔審議事項〕

特になし

細胞診専門医制度改革推進ワーキンググループ(委員長 植田 政嗣)

〔報告事項〕

1. 細胞診専門医制度の今後の方向性について通信委員会等で討議している。
日本専門医機構のヒアリング参加を6月20日(月)19:00～20:00に行った。
2. 新しい細胞診専門医制度の運用面も含めて細胞診専門医あり方委員会，細胞診専門医委員会，施設認定制度委員会と協力して施行細則整備を行っている。
3. 平成28年度教育研修指導医申請と認定作業を実施。

〔審議事項〕

特になし

肺がん学会とのワーキンググループ(委員長代理 池田徳彦)

〔報告事項〕

1. 喀痰細胞診に関する地域・施設・検鏡者による診断率の差に関する研究をしていく。
2. 既に日本肺癌学会ホームページに掲載されている標準的な細胞像のアトラスを日本臨床細胞学会ホームページへリンクした。
3. 2016年11月19日，第55回日本臨床細胞学会秋季大会第2日目に2学会合同委員会を開催予定。
4. 2017年3月11-12日開催の第73回細胞検査士ワークショップにて，当ワーキンググループが選択，作成，準備した，喀痰細胞診での，C判定細胞，D判定細胞，E判定細胞の標準細胞プレパラートの閲覧を行う予定。

〔審議事項〕

特になし

教育研修に関わるガイドライン検討ワーキンググループ（委員長 杉山 裕子）

〔報告事項〕

1. 第2回教育研修に関わるガイドライン検討ワーキンググループ会議報告

（2016年9月11日 15:00～16:00 日本臨床細胞学会地下2階）

ガイドラインの名称を日本専門医機構に準じた形で、「細胞診を通じてわが国および国境を越えて医療・医学に貢献する活動を目指す日本臨床細胞学会」にふさわしい、細胞診専門医の教育研修・認定システムに使用されることを目指しているため、「細胞診専門医教育研修ガイドライン」と名称を改め、改訂ガイドライン作業の基本骨子（下記）に基づき作成することを確認した。

従来のガイドラインの形式を引き継ぎ、総論と各論に分け、各論は下記①-③を記載。

- ① 細胞診報告様式
- ② 細胞診の教育研修に重要と考えられる疾患名または細胞診用語の列記
- ③ 細胞診の教育研修に重要と考えられる研修事項があれば、文章にて記載

2. 進捗状況報告（2016年10月31日現在）

- ① 全体の原稿が完成し、ガイドライン検討ワーキンググループ委員間で再確認中（2016年12月中（第2版）（案）を完成予定）
- ② 2016年11月19日14:30～15:30 細胞診専門医セミナーにて進捗状況を報告「細胞診専門医研修ガイドライン（案）」を「細胞診専門医教育研修要綱（案）」に改称することをWG委員会に提案する予定。
- ③ 2017年春の理事会にて承認予定

〔審議事項〕

1. 今後のタイムスケジュールについて議論され、3月11日の理事会で承認し、次年度の専門医認定試験より用いる方向性が承認された。

10. その他

1. 全国選出理事候補選挙結果について（佐藤之俊理事候補選挙管理委員会委員長）
平成29・30年度全国理事候補選挙の開票が行われ、21名が選出され、次点者9名の順位が決定されたことが報告された。

11. 審議事項


1. 地方選出理事候補選挙地方比例配分について（佐藤之俊理事候補選挙管理委員会委員長）：
地方選出理事候補選挙における比例配分について議論され、施行細則に則り北海道1名、東北1名、関東5名、中部1名、近畿2名、中国四国1名、九州2名の計13名とすることが承認された。
2. 第60回春期大会・総会の大会長について：内藤善哉理事が推薦され、全会一致で承認された。


閉会の挨拶：紀川 純三 副理事長


以上を以って本理事会の議題が終了し、平成 28 年度第 3 回理事会を終了した。

平成 29 年 1 月 18 日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 青木大輔 

監事 長村義之 

監事 長谷川嘉彦 

監事 佐々木寛 